

■（１０９）「目撃」と「記録」 何よりの裏付け

いじめ自殺に続き、新年早々、運動部顧問から体罰を受けた高校生の自殺が明らかになった。ほとんどの学校はこういう事態が起きると、自殺の背景を知りたいと生徒らにアンケート調査をする。だが、その回答に書かれた内容が事実かどうかを、学校や教育委員会ではなかなか確かめられない。

取材も似ている。得られた情報が本当かどうかを確認する作業は難しい。できれば記録文書や写真などで裏付けたい。原発事故の影響で苦しむ福島県内で、「手抜き除染」が繰り返されている実態を新年の朝日新聞がスクープした。厳寒の中、記者は張り込んで作業の手抜きをカメラに収めた。聞き込んだ情報だけならば、業者から「手は抜いていない」とはぐらかされていたかもしれない。その点、「目撃」は強い。１２年余り前にも、旧石器時代の遺物を次々と発見する「神の手」を持つとされた学者のうそを、別の新聞が暴いた。自ら埋めてから掘り起こす自作自演だった。記者が長期に張り込んで事実を目撃、記録した。

理科実験、社会科見学、修学旅行——自らの目や耳で確かめれば、複雑な事象でも中身を理解しやすくなる。体罰は多くの目撃者がいたのに……。取材する記者も悔しい。

（山）